

しもやま

支所だより Vol.189

下山地区データ

人口 4,299人 (-117)
男性 2,140人 (-63)
女性 2,159人 (-54)
世帯数 1,668世帯 (-7)
12月1日現在 ()は前年同月比

令和3年1月15日発行

新年あけましておめでとうございます

みなさんは、新年のおめでたいものという、何を想像しますか。初日の出、おせち料理、お年玉などいろいろとおめでたいものがありますが、下山地区にはおめでたい席を盛り上げる出し物として、羽布町を中心に三河万歳が伝わっています。

下山地区には、このほかにも念仏踊りや雅楽、祭り囃子（巴太鼓）などの伝統文化が引き継がれており、特にこの4つの郷土芸能は、市の無形民俗文化財に指定されている貴重なものです。

ただ、いずれの郷土芸能についても、後継者不足が課題となっており、今後の伝承が心配されています。下山まちづくりアクションプランでは、こうした地域の伝統や文化についても、まちづくりの重要な要素と考えており、分野の1つに位置付けています。

分野別プラン：生活環境（伝統・文化）

伝統・文化では、伝統芸能の価値や魅力が再認識され、地域ぐるみで継承されること。また、地域の文化が後世に語り継がれて伝承されていることを目指して、次の取組を進めていきます。

事業1 伝統文化の継承

無形民俗文化財に指定されている4つの郷土芸能の伝承のため、映像やデータとしての保存活動を行います。

事業2 郷土資料館の見直し

香恋の館の2階にある郷土資料館の展示について、下山ならではの文化を発信できる内容に見直します。

事業3 民話の伝承

下山地区に伝わる民話を、紙芝居などにして子どもたちに語り継ぎます。



挿絵は、平成28年1月15日号の下山支所だよりに掲載した、三河万歳のイラストです。 絵：中村広子さん



下山で 頑張ってる人 大募集!



3月20日に開催を予定しているWE LOVE しもやまフェスタでは、地域で頑張ってる人（団体）を紹介し、表彰することを検討しています。

例えば、地域で清掃をしている方、子どもや高齢者の見守りをしている方、こまめに草刈り農地の保全をしている方など、どんな分野でも構いませんので、地域で“頑張ってるな”と思う方が見えましたら、地域会議委員又は下山支所に情報提供をお願いします。

しもやま支所だよりは豊田市ホームページからも見る事が出来ます。 <http://www.city.toyota.aichi.jp/>



編集・発行／豊田市役所下山支所／毎月15日発行／〒444-3242 愛知県豊田市大沼町越田和37-1/
TEL0565・90・2111/FAX0565・90・3344/E-mail shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp
地域記者を募集中！あなたの伝えたい地域情報を支所だよりに掲載しませんか！

令和2年度 わくわく団体の活動紹介

- 団体名：三河湖の自然と環境を考える会
- 事業名：三河湖の自然を理解して楽しむ事業
- 代表者：川合弘太（羽布町）



▲代表の川合さん

「現在の三河湖はブラックバスが多く、破壊された生態系です。適切に人の手で管理された自然を守りたい。外来種駆除も環境へ大きな変化を一度に与えるのではなく、イワナなどの在来魚の捕食者へと徐々に変化させていきたい。」と代表の川合弘太こうたさんはこの自然環境団体を立ち上げた動機を語ってくれました。

今回のイワナ放流への想いを尋ねると、「今は小さなイワナですが三河湖を泳ぎ回って数年後に大きく育った巨大イワナと再会したい。」と夢を教えてくださいました。

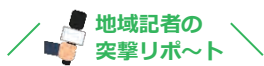
「三河湖ができてすぐの頃は、ワカサギが沢山いたと過去の文献には書いてあるので、ワカサギ放流も行いたい。湖自体の魅力を高めて、人が集う三河湖を作っていきたい。三河湖の大自然を地域資源として活用したい。自分たちが新しい地域の担い手になりたい。」と今後の活動の計画をしっかりと考えているそうです。



▲清掃活動（9月）



▲地元の子どもらによるイワナの稚魚を放流（12月）



地域記者の
突撃リポート

もっと楽しい場所へ

変わる三河湖！



やがみ あやの
矢上 彩乃さん
(名古屋市)

『香恋の里しもやま観光 PR 大使』として、下山地区の観光 PR やイベント司会など幅広く活躍中！

三河湖観光センター駐車場の南側にボート乗り場があることをご存じでしょうか？

週末限定で、ボート乗り場の管理人をしている鈴木啓祐けいすけさん（愛称：みどりすけ）へ取材に伺いました。

鈴木さんは、三河湖の素敵な風景に感動し、管理人として住み込みで働くほど、三河湖を愛する方です。元有名釣具店店長の経歴を持ち、釣りをはじめとするアウトドア全般に精通している方です。

レンタルボートの受付は、ボート乗り場から離れた「かじか苑」で行いますが、管理人がいる週末には、ボート乗り場で受付ができるので、ボートの利用がしやすくなりました。

鈴木さんは他にも、ボート乗り場の周辺整備やレンタル用品の充実、使い勝手のよいボートの改良などを実現。さらに情報発信に力を入れ、レンタルボートのホームページ開設をはじめ、三河湖での釣果報告や新たなイベントなどをブログで更新し、三河湖に人を呼び込む努力を続けています。



▲新しく利用しやすくなったボート乗り場



すずき けいすけ
鈴木 啓祐さん
(名古屋市)

愛称：「みどりすけ」
わくわく団体の三河湖の自然と環境を考える会のメンバーとしても活躍中！



▲手漕ぎボートレースの様子

三河湖がもっと楽しい場所になるようにと、「手漕ぎボートレース」や「初日の出ボート」などのイベントを企画してきた鈴木さん。

「今後も春に向けて、楽しい計画をいっぱい考えています。みなさん、三河湖に遊びに来てください！」と抱負を語っていただけました。



▲三河湖ボートの HP

花山小3年、地元で林業体験学習

花山小学校3年生の15名が、「木を育てる仕事」について学習し、実際に山に入って間伐見学や伐採体験を行いました。

この取り組みは、「山に囲まれた地域特性を生かし、子どもが木に触れる機会を与えたい」と学校が企画したものです。

10月29日(木)、豊田森林組合と愛知県林務課の職員を講師に招き、同校の教室でスライドを見ながら森林の役割や山で働く人について学びました。

11月25日(水)には、花沢町の根引山(妙楽寺)の場所をお借りして、同講師による実際の間伐見学や伐採体験を行いました。

児童たちは2つの班に分かれて、ノコギリの使い方や伐採する木を狙った位置に倒す「受け口」の作り方などを教わりました。「ノコギリは、押す時より引く時に力を入れるんだよ！」頭では分かっているも実際に木を切るのは大変！児童らは体験を通じて山仕事の大変さを実感しました。



▲切り方のポイントを教えてもらう児童



▲しもやま茶と下山の魅力語る石川さん

茶摘み体験の代替で **しもやま茶**の魅力を語る！

11月9日(月)下山中学校の全校集会で、しもやま茶の素晴らしさ、自身の下山愛などを伝える講演がありました。

この講演は、例年5月に行われているお茶摘み体験が、新型コロナウイルス感染防止のため中止となったため、それに代わる事が出来ないかと、下山地区でオーガニック茶の栽培をしている石川龍樹^{たつき}さんが企画したものです。

講演では、「皆さんの先輩に摘んでいただいたお茶が愛知県のお茶のコンテストで1位をとったこと」「日本初のオーガニック抹茶は下山で作られたこと」など、写真を交えて紹介がありました。また、「中学生のみなさんが進学や就職で地元を離れることがあっても下山を愛し下山に関わり続ける関係人口になってくれたら、下山を愛する一個人として嬉しい」と語っていました。

巴ヶ丘小3年、地元の民話舞台巡り

11月9日(月)巴ヶ丘小学校3年生の10名が、下山地区にある民話の舞台になった史跡など2ヶ所をスクールバスで巡りました。

この取り組みは、「下山にある史跡や言い伝えがある場所を実際に見に行き、その場の雰囲気を感じて欲しい、下山の魅力の一つを感じて欲しい」と、担任の柴田弘^{ひろし}教諭が企画したものです。

児童は民話の紹介看板とその周辺の写真をまとめたノートを持参して民話の舞台を巡り、石像の見方を学んだり、感じたことを伝え合ったりしました。

そして、11月28日(土)の学芸会で、今まで学習したことや見学したことを劇にして発表しました。児童らは「民話に込められたメッセージを私たちが受け継いでいきます。」と民話を通じて、先人たちの思いに目を向ける貴重な機会となりました。



▲現地児童に民話の解説をする柴田教諭

木製足踏み式消毒液ホルダー寄贈！

下山地区内の公共施設や店舗等に、株式会社大正屋（代表取締役 中根^{もりひと}盛仁）様から木製の足踏み式消毒液ホルダーの寄贈がありました。

「新型コロナウイルスの終息が見通せない中、会社として何か出来ないか」と寄贈の申し出がありました。

足踏み式なので、消毒液のポンプに直接触れることはありません。また、木製のパーツをはめ込むことで、消毒液の容器の高さも調整が可能です。



1日限定！下山支所でマイナンバーカードの申請ができます！

- と き 1月28日（木）午前9時30分から午後3時まで
- ところ 下山支所 市民生活担当窓口
- その他 予約不要。手数料無料。



持ち物：本人確認資料 ①運転免許証、旅券等の顔写真付きの本人確認資料 ②保険証、年金手帳、診察券などの「氏名+生年月日」又は「氏名+住所」が確認できる資料 ※ ①をお持ちでない方は、②を2点お持ちください。③紙製の通知カード（お持ちの方のみ）

- 問合せ 市民課マイナンバーカード交付窓口 電話34-6773（直通）

無料税務相談所(下山会場)が電話予約制(先着順)になります！



確定申告等のe-Tax送信や郵送提出に御協力をお願いします。

- 確定申告書の作成・提出は、自宅のパソコン・スマートフォンで御利用いただける国税庁ホームページの「確定申告書等作成コーナー」が大変便利です。
- 令和2年分の申告から所得の計算方法が大きく変わります。計算誤りの防止や、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためにも「確定申告書等作成コーナー」を利用し、e-Taxで御提出ください。なお、申告書を印刷した場合は、郵送で御提出ください。
- 市・県民税申告をされる方も、郵送での御提出をお願いします。

各地区の無料税務相談所は電話予約制（先着順）になります。

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事前の電話予約制（先着順）になります。事前予約なしでの当日受付はできません。電話予約は豊田市役所市民税課で実施します。
- 日程及び予約方法など詳しくは、広報とよた1月号を御覧ください。
- 豊田市役所や各支所では確定申告の相談・受付はできません。各地区の無料税務相談所又は確定申告相談会場（豊田市福祉センター）を御利用ください。

確定申告相談会場（豊田税務署・豊田市福祉センター）

- 受付方法が変更になります。詳しくは、広報とよた1月号を御覧ください。
- 下山支所での確定申告関係書類の配布は2月1日（月）からです。配布書類は確定申告書（A・B）、手引き、医療費明細書及び納付書です。税務署又は国税庁のホームページからも入手できます。

- 問合せ 豊田市役所 市民税課 **電話34-6617（直通）**

下山交流館 まなびのひろば

豊田市下山交流館

開館時間：午前9時～午後9時

(図書の貸出・返却は午後8時まで)

休館日：月曜日(祝日、振替休日を除く)・年末年始

連絡先：TEL0565-91-1650/FAX0565-91-1030

ホームページ：<http://ph-toyota.jp/guide/shimoyama/>

指定管理者：公益財団法人豊田市文化振興財団



事業報告

くらふとサロンvol.2

②リボンバッグを作ろう!

11月24日(火) 参加者 10人

同じリボンの組み合わせでも、重ねたものと並べたものでは全く違った感じで、個性豊かなリボンバッグが出来上がりました。「かわいくできて満足、楽しくできて良かった」などの声が多く寄せられました。



完成作品!



リーダー研修会 後期

12月10日(木) 参加者 14人

前期研修会は、コロナ感染拡大防止策を鑑み、中止としたため、今回は自主グループの皆さんの初顔合わせとなりました。



活動発表の場でもある「ふれあいまつり」も中止になってしまいました。そのため次年度の参考になるよう、コロナ対策を徹底した他館ふれあいまつりの様子を画像で紹介しました。

また、4月から運用される公共施設予約システムについての説明、質疑応答を行いました。このシステムは、館をご利用される一般の皆さんにも必要となります。次号でもお知らせします。詳細は、窓口までお問合せください。

お知らせ

学習室を開放しています!

利用のない部屋を、学生の方を対象に学習室として開放しています。冷暖房完備の静かな部屋で集中して勉強できます。ぜひ活用してみてください。利用の際はお申し出ください。



地域講師募集します!

あなたの得意なことや伝えたいことを地域の方に教えてみませんか?
多種多様なご趣味をぜひ!
お気軽にお声かけください。



令和3年度のロビー展 展示希望者募集

下山交流館ロビーでは、個人・団体の作品を2週間から1か月間展示できます。絵画・手作り作品・収集品など、あなたの作品を展示してみませんか?

交流館までお声かけください。



▲12月 下山の森の仲間たちの作品展

岩と唸り合いたたね
唸り松(宇尼羅松)

絵と文がまらるる

昔、村々田和の村はずみ、宇二良の八幡様と若宮様を祀る石碑の脇に、
そとは立派な街道の里松があった。夜には重なり合った枝から唸るよう
な響きがして、宇二良の神さんの松と宇尼羅松は「唸り松」だと
村人から呼ばれ、崇められてあった。

とあるで、宇尼羅松から見える村々田和の谷とこの向こうに大古の
昔から見つめ合っている見合の岩と呼ばれた二つの岩があったよ。村々田和
の谷の中段に、すべとした美しい岩があり、その真すべ向こう
原の本の奥からこの岩を見つめる大岩だ。しかも、間に邪魔物が建つと
嫌がった大岩が、神通力で砕いてしまい家が建たないと言ひよった。

宇尼羅松は村々田和の谷を見守りながら何を思っていたらう…
ある晩のこと、宇尼羅松が唸りを上げた。
始めは小さく「ゴオーツッ、ゴオーツッ、段々と大きくなり、
「ゴオーツッ、ゴオーツッ、ゴオーツッ」と響き渡った。

すると西の原の本の大岩の方から
「グリーン、グリーン、唸り返す響きがあって
「グアイツッ、グアイツッ、グリーン、グリーン、唸りは一晩中響き渡った。
そして夕が過ぎ春が来て、村々田和の岩から松の芽が生えた。
数年もすると宇尼羅松とくくりになり、申すの松と呼ばれたんだよ。
残念ながら唸り松、村々田和の岩、申すの松はもう無い。今も残る
のは石碑と原の本の大岩。あゆから唸りを聞いたことがない。

